

十訓抄『安養の尼』定期テスト対策問題（解答・解説編）

解答・解説

1. 現代語訳

1. 家にある程度（ありったけ）の物を、すべて取って（盗んで）出て行ってしまったので。「あるほどの物」は「ある限りの物・家財一切」。「みな取りて」で根こそぎ奪ったことを表す。「出でにければ」は「出で（連用形）＋に（完了「ぬ」の連用形）＋けれ（過去「けり」の已然形）＋ば」で「出て行ってしまったので」。
2. （盗人は）自分の物だときっと思っているだろう。主語は「盗人」。「こそ……らめ」は係り結びで、「らめ」は現在推量の助動詞「らむ」の已然形。「つ」（完了・強意）＋「らむ」で「きつと〜ているだろう」と強く推量する。盗人がすでに我が物と思い込んでいるはずだ、という意味。
3. 持ち主が納得していない物を、どうして着ることができようか（いや、着られない）。「心ゆかぬ」は「心ゆく」（満足する・納得する）の打消で「納得していない」。「いかが……べき」は反語で「どうして〜できようか、いや、できない」。盗まれて持ち主（盗人）の気が済んでいない物を身につけるわけにはいかない、という無欲・潔白な心を表す。

2. 文法・敬語

4. 尊敬の助動詞「らる」（の連用形）。「居（ゐ）る」＋「られ」で「（尼上が）座っていらっしゃる」。語り手から尼上への敬意を表す尊敬。受身・可能・自発ではない点に注意。
5. ④「奉れ」＝謙譲語。⑨「取らせ給へ」＝尊敬語。④「奉る」は「与ふ・差し上ぐ」の謙譲語で、小尼公が尼上に「差し上げてください（＝持ち主に返しなさい）」と勧める形。⑨「給ふ」は尊敬の補助動詞で、尼上への敬意。「取らす」は「与える・くれてやる」の意。
6. 尊敬語（「行く・来」の尊敬で「いらっしゃる」）。「おはします」は「あり・行く・来」の尊敬語。「持ておはします」で「（その小袖を）持っていらっしゃって」。尼上が小尼公に対して敬意をこめて言っている形。
7. 直前に係助詞「こそ」があり、係り結びの法則によって結びの語が已然形になるため。「こそ」は文末を已然形で結ぶ。よって推量の「らむ」が已然形「らめ」となっている。
8. 丁寧語。「侍り」は「あり・をり」の丁寧語で「〜ございます・〜です」。「これ落として侍るなり」で「これを落としてございます（落とされたのです）」と、小尼公が丁寧に述べている。

3. 語句

9. そっくりそのまま全部。すべて。「さながら」は「そのまま・残らず全部」の意。ここでは盗んだ物を「すべてそっくり元どおりに」返し置いたことを表す。現代語の「さながら（まるで〜のようだ）」とは意味が異なる点に注意。

10. 「案じ（案ず）」＝あれこれ思案する・考え込む。「気色」＝（外に表れた）ようす・様子。

「しばし案じたる気色にて」で「しばらく考え込んでいるようすで」。盗人たちが尼上の言葉に心を動かされ、思案している場面。

11. （盗みに入ったのは）悪いことをしてしまった（まちがった所へ参上してしまった）なあ。

「悪しく」は形容詞「悪し」の連用形で「悪く・よくなく」。「参りにけり」は「参る」（参上する＝盗みに入ったことを自らへりくだって言う）＋完了「に」＋詠嘆の「けり」。盗人が自らの行いを恥じ、後悔する気持ちが表れている。

4. 内容理解

12. 「主」は、その小袖を盗んで持ち去った盗人を指す。物を盗まれてもなお、盗人を物の持ち主として尊重し、相手が納得していない物は身につけまいとする、無欲で慈悲深い（潔白な）人柄が読み取れる。盗んだ品でも「いったん盗人の物になった以上、盗人の気持ちが収まっていないものを着るわけにはいかない」と考えるところに、欲を離れた清らかな心と、相手への思いやりが示されている。

13. 落とした小袖まで律儀に返そうとする尼上の無欲で潔白な態度に、盗人たちが心を打たれて深く反省したから。尼上の言葉を聞いた盗人たちは「しばし案じたる気色」で考え込み、「悪しく参りにけり」と自らの行いを恥じ、奪った物を残らず元へ返して帰った。尼上の高潔な心が盗人を改心させた、という説話の主題（仏教的な徳・教訓）を示す結末である。

5. 文学史

14. 『十訓抄』は鎌倉時代に成立した説話集（教訓説話集）。類話を取る説話集は『古今著聞集』。『十訓抄』は建長四年（一二五二年）成立で、年少者の教訓のために十か条にわたって説話を集めた教訓説話集。同じ安養の尼（恵心僧都＝源信の妹）の話は、同じく鎌倉時代の説話集『古今著聞集』にも類話として収められている。